

研究課題名	COVID-19 自粛生活が小児糖尿病患者の血糖コントロールに与えた影響に関する後方視的多施設共同研究
研究の意義・目的	2019年に新型コロナウイルス（COVID-19）の流行が始まり、COVID-19 流行防止のために日本では4月に緊急事態宣言が出されました。幼稚園、学校が休園、休校になり、在宅勤務をされるご家庭が増えました。生活習慣が血糖コントロールに影響を与えることは知られていますが、緊急事態宣言による自粛生活が小児糖尿病患者さんの血糖コントロールに与えた影響については不明です。本研究では、緊急事態宣言による自粛生活が、小児糖尿病患者さんの血糖コントロールに与えた影響を調査します。緊急事態宣言前後での血糖変化、インスリン必要量の変化を調べます。さらに血糖コントロールが悪化された方と悪化されなかった方、インスリンの必要量が増えた方と増えなかった方に分け、悪化した原因を調べます。
研究を行う期間	倫理委員会承認後～ 2023年3月31日
研究協力をお願いしたい方(対象者)	大阪市立大学医学部附属病院小児科・新生児科に通院中で、2019年12月17日時点で1歳以上18歳（高校生）以下の、1型糖尿病と2型糖尿病患者さんで、かつ、緊急事態宣言開始（2020年4月7日）の前後で受診された方が対象です。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報等：情報：年齢、性別、糖尿病の型、身長、体重、血糖、HbA1c、TIR(time in range)、TBR(time below range)、TAR(time above range)、糖尿病治療歴（インスリン、内服薬など）、運動量低下の有無、過食の有無、家庭環境（一人親、両親共働き、兄弟姉妹、祖父母支援の有無）、受診間隔期間、オンライン診療または電話診療の有無、高血圧の有無、脂質異常症の有無、高尿酸血症の有無、脂肪肝の有無、糖尿病合併症（網膜症・腎症・神経症）の有無、自閉の有無、ケトosis・ケトアシドーシスの有無、重症低血糖の有無
試料・情報の他機関への提供	特定の個人を識別できない形で、共同研究機関大阪市立総合医療センター小児代謝・内分泌内科に頂いた試料・情報を提供します。
この研究を行っている共同研究機関	大阪市立総合医療センター 小児代謝・内分泌内科 樋口 真司 倉敷中央病院 小児科 細川 悠紀 多摩北部医療センター 小児科 仁科 範子 熊本大学医学部 小児科 永松 扶紗 大分大学医学部 小児科 糸永 知代 大阪市立大学医学部 小児科 川村 智行 東京都立小児総合医療センター 内分泌・代謝科 長谷川 行洋 新潟大学医学部 小児科 小川 洋平 茨城西南医療センター病院 小児科 篠原 宏行 弘前大学医学部 小児科 八木 弘子 京都大学大学院医学研究科 地域医療システム学講座 臨床疫学講座 臨床疫学グループ 特定講師 山崎 大
試料・情報を管理する責任者	地方独立行政法人大阪市民病院機構大阪市立総合医療センター 小児代謝・内分泌内科 医長 樋口 真司
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
連絡先	小児科・新生児科 川村智行 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町 1-4-3 電話 06-6645-3816